

令和7年度

学校評価報告書

山梨市立岩手小学校

令和7年度 学校評価について

山梨市立岩手小学校

本校における学校評価について、次のように実施しましたので報告いたします。

1 実施の内容及び実施方法等について

(1) 自己評価の実施

学校教育目標「自ら学び、心身共に健康な子どもの育成」の達成に向け、「自ら学ぶ子どもを育むため 確かな学力の育成」、「心身共に健康な子どもを育むため 豊かな心の育成・健やかな体の育成」、「地域と共に子どもを育むため 地域や世界で活躍できる人材の育成・家庭や地域との連携」、「働き方改革」という4つの重点目標について、それらを17に細分化した項目で、自己評価をおこなった。

(2) 児童・保護者・教職員への学校教育アンケート調査の実施

昨年度に引き続き、今年度もGoogle Formsを用いて学校教育アンケートを行った。児童・保護者・教職員に対して、言葉は分かりやすくしてあるが、同じ内容のことを問うようアンケートを実施した。それぞれの捉え方にどのような違いがあるか、肯定的評価の最も高いものを4、最も低いものを1と数値化し、平均値を比較した。また、肯定的評価の割合についても数値化し、児童・保護者・教職員の評価を比較した。

(3) 職員会議での検討

職員による自己評価及び、三者の学校教育アンケートの結果から、今年度の成果と課題を明らかにした。また、昨年度から課題となっている項目について、重点化する事項を洗い出した。

(4) 学校評価結果検討会の開催

重点化した事項について、それぞれどのような手立てが出来るのか、その改善策を検討した。今後の方向性と具体的な取組を考え、来年度の方向性を全職員で確認した。

(5) 学校運営協議会での学校関係者評価

教職員による自己評価及び、三者の学校教育アンケートの結果をすべて示し、学校評価を検討した会議で出された、今後の方向性と具体的な取組に対して、ご意見をいただいた。

(6) 保護者への公表

分析・考察したことをもとに、成果と課題を明示し、来年度の方向性を示した。また、学校教育アンケートの数値結果を保護者へ公表した。

2 集計結果の考察

(1) 教職員による自己評価から

学校教育目標を意識して教育活動に取り組むことができている。自己評価として、成果を感じている部分や不足を感じている部分はあるが、全体的に肯定的な意見が多いことが数値に現れている。達成状況や今後の改善・充実方策を文章表記してもらったところを見ると、とくに、学習者主体の授業への転換、あいさつの励行、メディアとの付き合い方について課題と感じていることがわかる。また実際の数値として現れている。

(2) 保護者アンケート・児童アンケートの結果から

児童・保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。大きく異なる項目は「読書について」で、保護者の評価が低い。昨年度の反省から、読書に触れる機会を多く設定したため、教職員の評価は昨年より上がっているが、家庭では読書をする機会が少ない児童もおり、保護者の評価は低いままであると考えられる。親子読書や贈りたい本大賞への応募等、保護者を巻き込んだ取り組みも行ったが、家庭での読書活動の推進も必要であると感じた。また「あいさつについて」、「ネット使用時間」については、昨年度同様肯定的評価が低い。引き続き、学校側として具体的な取り組みを考えていくことが必要である。

3 今後の方向性

今年度の学校評価から課題とされた事項について、来年度の重点項目として、具体的な取組を行っていく。

「学習者を主体とした授業づくり」については、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業実践と改善を積み上げていく。また個に応じたきめ細かな対応、ICTの利活用は引き続き進めていく。

豊かな心の育成として「読書活動」は、「朝読書」、「読書カード」、「おすすめの本紹介」、「ビブリオチャレンジ」等の取組を継続して行う。また「家読」も実施し、家庭での読書を習慣化できるように取り組む。「あいさつ」は、児童総会で話題に取り上げるなど、児童会を中心にあいさつについて意識する機会を設け、気持ちよい自然なあいさつが出来るように根気強く指導を継続する。

基本的生活習慣の確立では、保護者・職員ともに課題と感じているのが「ネット使用について」である。家庭とも協力しながら取り組み、改善していく。

4 まとめ

岩手小学校では、今までの反省を生かし、「自ら進んで考え主体的に行動できる児童」を目指してきた。教育活動全体を通して、児童が主体となって考え、実践させる一手間をかけることを共通理解の下、子ども達の成長を育んできた。指示を待つのではなく、失敗してもよいから、自分で考えて行動することや、子ども達の意見や考えを大切にすることを心がけてきた。その成果が、日頃の学校生活や、各種学校行事等にも現れていた。少人数ということで、一人一人がもつ役割や責任が多いが、進んで考え行動できる児童が多い。今後も任せて取り組ませ、認め、褒めながら子どもの自己肯定感を高めながら成長を促していきたい。

令和7年度 教職員による自己評価

学校教育目標 「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに、【4:「とてもそう」】3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」】で集計					
重点目標	番号	評価項目	評価指標	自己評価 平均値	教師の具体的方策
自ら学 ぶ子 ども を 育 む た め に	○確かな学力の育成	1 学習者を主体とした授業づくり	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業実践と改善を積み上げ、授業力の向上に努めている	2.8	・児童が自ら課題を見つけ、自ら解決に向かえるよう仕組みだか ・授業を振り返り、改善を行ったか
		2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現	児童一人一人の学習状況を把握し、個に応じた内容や指導法で、協働的な学習を行っている	2.9	・机間指導を行い、常に児童の学習状況を把握したか ・他者の思考を参考にしたり、他者への助言を与えたりする展開を仕組みだか
		3 ICT端末を中心とした機器の活用	児童の発達段階を考慮しながら、ICT機器や環境を最大限に生かした授業の充実を図っている	3.2	・大型モニター等の機器やデジタル教科書を適時使用したか ・クラウド環境を活用した学習を仕組みだか
		4 学習習慣の確立	児童に基本的な学習内容の習得や家庭学習の習慣が身につくよう取り組んでいる	3.1	・朝活動を活用し、基本的な学習内容の定着を図ったか ・「岩手っ子の学び」を利用したり、家庭学習の方法を共有したりしたか
心身 共 に 健 康 な 子 ど も を 育 む た め に	○豊かな心の育成	5 人権教育の推進	児童に自分の大切さや他の人の大切さを認めることのできる人権感覚を涵養している	3.6	・互いを認め合える雰囲気づくりに努めたか ・自分の良いところに気づかせ、自己有用感を育てているか
		6 道徳教育の充実	自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つ道徳教育を行っている	3.6	・年間指導計画や全体計画に基づき教育活動全体で、道徳教育を行っているか ・授業参観等で、道徳科の授業を行っているか
		7 読書活動の推進・習慣化	日常的に児童が本に親しむ機会を設けて、しなやかな心の育成を図っている	3.8	・日常的に児童が読書に親しむ取組を行っているか ・朝活動の「読書」を活用し、読書の習慣化を図っているか
		8 いじめ・不登校・暴力のない集団づくり	児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応・早期解決に努めている	3.7	・児童が安心して学校生活を送れるような学級づくりを行っているか ・組織的な相談や支援を行っているか
○健やかな体の育成	9 体力向上への取組	児童の運動習慣、朝食摂取、十分な睡眠等、望ましい生活習慣の定着を通じて体力の向上を図っている	3.5	・休み時間等における運動遊びを奨励しているか ・学校の課題を踏まえた「健康・体力づくり一校一実践」に取り組んでいるか	
	10 健康教育の推進	各教科や領域と関連させて、健康に関する指導を行ったり、食に関する課題を設定して取り組んだりしている	3.5	・児童が自らの健康について意識し、適切な行動をとることができるよう健康に関する指導をしているか ・給食センターの便りや動画等を活用し、食に関する指導をしているか	
	11 安全教育の推進	児童が自分で自分の身を守る能力を育むことができるよう安全教育にとりこんでいる	3.7	・交通安全、生活安全、災害安全を網羅した安全教育を行い実効性のある訓練を行っているか ・安全点検や環境整備を行い、学校環境を改善しているか	
地域 と 共 に 子 ど も を 育 む た め に	○地域や世界で活躍できる人材の育成	12 英語科教育の充実	4技能5領域の言語活動を着実に実施し、コミュニケーション能力を育成している	3.4	・英語に慣れ親しむ活動を通じ、体験的に学習させているか ・パフォーマンス評価を計画的に行っているか
		13 地域人材の活用や地域との連携	地域の人材を教育活動に活用したり、教職員や児童が地域行事に積極的に参加したりして、郷土への理解を深めている	3.7	・地域の人材を活用する授業を企画・運営したか ・児童に地域行事へ積極的に参加・協力させ、郷土への関心を深めるよう努めたか
		14 キャリア教育の推進	「やまなしキャリア・パスポート」を活用し、教員が対話的にかかわることで児童のキャリア形成を促している	3.1	・行事や学期始め、学期末等の節目の時期に、目標や振り返りの場を設定したか ・児童と対話的にかかわり、目標設定や振り返りの支援をしたか
○家庭や地域との連携	15 家庭・地域への情報発信と連携	授業参観やお便り等を通して、児童の様子を家庭に伝えたり、気軽に相談できる雰囲気作りを努め、連絡を取り合ったりして連携している	3.8	・学校の教育活動や児童の様子をおたより等を通じ、保護者や地域に情報発信したか ・家庭との連絡を綿密に行い、児童の様子を共有したり、相談したりしたか	
	16 関連機関との連携	教育相談や特別支援教育等の外部機関と連携し、多角的な支援を展開している	3.6	・SCの活用を推進したか ・課題を学校が抱え込まず、関係機関と連携し、支援をしたか	
働き方改革	17 業務改善に向けた工夫の実施	勤務時間外の在籍時間短縮を意識し、効率的に業務を行う等の働き方改革に努めている	3.0	・前例踏襲ばかりではなく、見直しを行い業務改善を図ったか ・効率的に業務を行うことができるよう意識的に自らの働き方を見つめたか	

令和7年度 教職員による自己評価(記述意見)

学校教育目標「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに、[4:「とてもそう」]3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」で集計			
重点目標	番号	評価項目	自己評価 平均値
自ら学ぶ子どもを育むために	1	学習者を主体とした授業づくり	2.8
	2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現	2.9
	3	ICT端末を中心とした機器の活用	3.2
	4	学習習慣の確立	3.1
心身共に健康な子どもを育むために	5	人権教育の推進	3.6
	6	道徳教育の充実	3.6
	7	読書活動の推進・習慣化	3.8
	8	いじめ・不登校・暴力のない集団づくり	3.7
心健やかな体の育成	9	体力向上への取組	3.5
	10	健康教育の推進	3.5
	11	安全教育の推進	3.7
地域と共に子どもを育むために	12	英語科教育の充実	3.4
	13	地域人材の活用や地域との連携	3.7
	14	キャリア教育の推進	3.1
	15	家庭・地域への情報発信と連携	3.8
働き方改革	16	関連機関との連携	3.6
	17	業務改善に向けた工夫の実施	3.0

達成状況や今後の改善・充実方策 ▲

○それぞれで考える時間を設け、対話を通じて深い学びにつながる活動を意図的に行った。
○授業や単元ごとの振り返りや、更に調べたいこと学びたいことを視覚化させ課題を見つけていく仕組み。総合的な学習の時間では児童が自ら課題を見つけ、取り組むような授業ができた。
▲教師主導の授業になっていて、子供が一番忙しくなるような授業にはなっていない。
▲ワークシートを自分で増やしたり、自学をする児童もいた。実践と改善に努めているが、自ら課題を見つけていくという点ではまだうまくできていない。
▲意識して、自分で考える時間、友達と一緒に考えて、課題に取り組む学習活動を取り入れているが、子供主体とはなっていない。学習課題を子どもと一緒に考えていくことが必要と感じる。

○少人数を生かして、児童一人ひとりの状況を把握し、個に応じたきめ細かな指導がされている。学習状況によって個別指導を丁寧に行える。
○端末や大型モニター、クラウドを活用し、他者と自己の考えを比較させ、お互いにアドバイスをしたり、自分の考えを修正したりすることができるようにして協働活動を進めた。
○少人数なので、一人一人の学習状況は把握しやすい。机間指導などは毎時間行い、児童の学習状況の把握に努めた。
▲学級の人数が少ないので、協働的な学習には工夫が必要。
▲他者の思考を参考したり、助言する場はなかなか作ることができていなかった。今後、他者の思考を参考したり、助言する場を授業内に取り入れていきたい。

○端末や、モニターを使ったり、クラウドを活用して学習を進めることができた。児童も使いこなしている。
○授業では、ICT端末を毎日使用した。宿題では、eライブラリーから課題を出し取り混ぜることができた。
○児童の実態に応じてICT機器を活用した。またICT機器のさまざまなアプリにふれさせる機会をふやすようにしている。
○AIDRは、夏休みなどの長期休みなどに取り組むように促した。
▲まなびユアやeライブラリーを使用していたが、クラスルームやスクールタクト、キャンパなど使いこなせていないので、もう少し活用できるようにしたい。

○家庭学習チャレンジカードを活用して、家庭学習を見える化して、学習習慣の確立を図っている。自主学習の内容は例を示したり、個別にアドバイスしたりした。
○基本的な内容の定着を図るため、児童の学習状況に応じた課題を出した。宿題では音読・計カード練習に継続的に取り組んだ。
○モースクでは、学習プリントやドリルを活用し、基礎基本の学習や復習を多く行い定着を図った。
▲学校のほとんどの児童が家庭学習の習慣が身につけていると思うが、課題は家庭の理解を得ることが難しく、家庭学習の習慣化があまりうまくできない児童の対応法である。
▲個人差があるので、個に応じた指導の工夫が必要。

○全職員が、全校児童の担任という意識で、担当学年を超えて信頼関係を築こうと指導できている。
○自己有用感を高めるため、よいことは小さな事でもすぐに褒め、褒めを認め合い、お互いに尊重し合える雰囲気作りを行った。また、人にはそれぞれ得意不得意があることを常に児童に伝えた。
○個人差があることや人それぞれ感じ方が違うことを普段から伝え、得意なことに対しては先生の代わりに活躍できる場を設けている。
○自己肯定感が上がるように児童それぞれのいいところをほめるようにした。また、いいところはほかの児童にも共有するようにした。
▲一斉指導や個別に関わる中で、自分を認める心や他人を思いやる心を伝え続けているが、十分ではない。今後も継続して支援を進める必要がある。

○道徳の授業だけでなく、教育活動全体で、個に応じたきめ細かな道徳教育を行っている。
○道徳教育推進教師として、道徳教育を学校の教育活動全体で年間を通して行った。またどの学年でも授業参観で道徳の授業公開を行い、保護者を巻き込んだ道徳教育を行った。
○道徳の授業だけでなく、他の授業や生活場面でも自己について考えることや、判断力や心情について意図的に考えさせる場面を作ることができた。
○普段の道徳の時間を大切にし、授業参観でも行った。道徳教育は道徳の授業に限らないため、平日頃から道徳教育に努めた。
○道徳の授業で学んだことや、日頃の道徳的な指導が日常生活の場面で生きていると感じることが多かった。

○全校朝読書の徹底、保護者・教職員も参加しての贈り本の紹介、ビブリオチャレンジの実施、司書教諭と連携しておこなった図書クイズなど、様々な取り組みを実施し、読書に親しむ機会を増やした。
○学期ごとに読書目標を立て、学期末にはふりかえりをした。朝読書で読んでいる本についても読書カードに記入し、おすすめも記録するなど、本の内容等についても話題に出して身近に親しめるようにした。
○国語の学習での関連本等も図書室から借り入れ、環境を整えた。また、週1回は授業内図書室に行くようにし、図書の本を借りることのできる場を設定した。
○モースクの読書だけではなく、空いた時間に本やよって、読書の時間を作ることができた。
▲朝活動や図書時間に本に親しむ機会をもうけているが、自主的に読書をするかは疑問である。

○児童のちょっとしたことについても、職員間で情報を共有し、大事にしないように未然防止に努めることができていた。
○いじめに対しては、組織として対応し、支援を行うことができた。
○児童が安心して学校生活を送ることができるように、生活アンケート実施後、気になる児童については個別に話を聞くなど対応した。
○児童理解を深めるために、日頃から児童を注意深く観察したり、コミュニケーションを多くとりつらした。また楽しい学習作りにつとめた。家庭との連携も密に行うことができた。
○支援などを要する児童については、日頃から学校全体で情報を共有し、組織的に対応をした。また必要に応じて外部機関とも連携をした。

○児童の様子で気になることは、養護教諭に相談し、指導を行うことができた。
○朝食を食べることの大切さを普段から伝え、しっかりと朝食をとる児童を増やすことができた。また、児童の運動の習慣を回るため、天気の良い日は外で遊ぶよう声をかけた。
○マラソン大会や縄跳び大会に向けて、昨年以上に体力づくりの機会を増やし、体力の向上にもつながった。また、ICTを効果的に活用し、児童が意欲的にまた楽しみながら、体力づくりが回られたと思う。
▲HTや昼休みなどの外遊びの奨励についてはあまり出来ていなかった。天気の良い日は室内ではなく外遊びをするよう声をかけをする必要があった。
▲「健康・体力づくり一校一実践」について教職員への共有が十分に回ることができなかった。

○養護教諭が中心になって、日常的に健康についての意識づけを行った。また健康指導や食育指導を計画的に行った。
○給食指導は、児童の発達段階を考慮し、食に関する知識やマナーなどを栄養職員・養護教諭と連携して指導できた。バランスの良い食事や食生活の改善についても栄養職員と連携して指導した。
○日頃から健康について話をし、考えることを習慣にしていることができた。また、保健の授業等で児童が自らの健康について意識するような指導をした。
○家庭科で学んだことを給食の時間内の話題とし、実生活とつなげた。給食の動画については、鑑賞しながらより内容についての理解を深めることができた。
○児童の実態や季節に合った指導を実施している。しかし、児童の健康課題を解決・改善するためには、これからも継続的な指導が必要である。

○毎月安全点検を実施し、不具合については即対応した。児童が安心・安全に過ごせる環境づくりに組織的に取り組んでいる。
○避難訓練では、めあてと振り返りを行った。何のための訓練か、どのようなことに気をつけたらよいかを事前に児童本人に考えさせ、避難訓練に臨ませることができた。
○交通安全、避難訓練等で児童が自分で自分の身を守る指導を行うことができた。
○年に数回の避難訓練で「自分の身は自分で守る」という意識が育まれている。また避難訓練の時だけでなく、日頃から自分の命は自分で守ることを伝えた。
○交通安全教室や避難訓練をすることで、計画的に安全教育を行った。また、授業内にも災害について触れる機会を設け、安全教育に努めた。

○英語の専科の先生と連携を取り合い、指導を進めることができた。
○英語の時間だけでなく、学校生活の中で英語でコミュニケーションをとったり英語の体験をさせたりすることができた。
○外国語の授業で学習したことに興味を持つよう話題に出し、児童の関心をひけるよう心掛けた。
▲英語を楽しく学べる活動を多く取り入れていたが、英語好きの児童が増えたとさらに良いと感じる。

○地域の方々の力を借りて多くの行事が実施できている。また、地域の行事で児童が太鼓演奏を披露したり、地域の方を学校に招き感謝の会を行ったりして、日頃の感謝の思いを伝えることも出来ていた。
○児童会行事や総合的な学習の時間など、地域の人材を有効に活用し、地域連携が積極的に行われている。
○地域の人が講師になって、農業体験活動を進めてくれている。
○世代間ふれあい活動等を通して地域の方たちと多くのふれあい活動をしている。また今年は150周年と言うことで例年以上に地域の方々とふれあう機会が多くとれた。
○岩手地区の伝統でもある岩手太鼓を通して、地域との連携や地域の活性化に貢献できている。

○学習発表会を実施して、児童が発表する機会を設けた。
○行事や学期の始めと終わりなどの節目にキャリアパスポートに取り組んだ。また、その後には生かすことができた。
○キャリアパスポートを使用し、目標や振り返りをしっかりとすることができた。
▲キャリアパスポートで目標設定や振り返りを行っているが、発表の場は設けていない。

○学校だよりや学年だよりを情報サイトに掲載し、保護者や地域に情報発信をした。また、ながら見守りや、行事への参加依頼についても、地域に回覧を回すなど、地域への情報発信を丁寧にを行った。
○お便りを定期的に発信した。また写真を掲載し、学校の様子が分かるようにした。
○授業参観などを通して児童の様子を家庭に伝えることができた。また、家庭との連携を密に行い、児童の様子を共有できた。
○毎日連絡ノートを書くだけでなく、送迎時に話を聞くなどの対応を行い、家庭との連携を密にとった。
○何か気になることがあったり、欠席をした際には家庭に連絡を入れるなど丁寧に対応し、保護者と情報共有をしている。

○SCとの面談を児童に積極的に紹介し、必要な児童に活用する機会を与えることができた。保護者にもSCの活用を促した。SCを十分に活用した教育相談が行った。
○カウンセラーと連携し、支援を行うことができた。クラスの全員面談を学期一回行い、困っていることなどの相談ができた。
○定期的実施される支援者会議には必ず出席したほか、会議以外にもこまめに情報共有を行い密に連携している。
○通級の先生とは密に連携した。
▲関係機関との連携を継続して行くとさらに良い。

○業務のDX化、教科担任制の推進、教職員の児童に関わる時間の確保など、様々な働き方改革を実施した。
○業務の改善を行い、効率化を図ることができた。効率的に業務を行い、意識的に働き方改革に努めた。
○授業準備については、児童の実態に応じてICT端末を活用したので、業務改善できた。
▲仕事の先が読めないように日々の業務に追われて、前例踏襲が多かった。時間割編成など校内の体制整備が進む中、さらに意識して自身の働き方を見直す必要があると思う。
▲効率的に業務を行うためには、各々のICT技術を上げていくことが必要である。また時間外勤務時間の削減や負担軽減のため、それぞれの分掌においてできることを考えていく必要がある。

令和7年度 学校教育アンケート <三者比較>

A:とてもそう思う(4) B:そう思う(3)
C:あまり思わない(2) D:思わない(1) とした場合の値です

平均値

肯定的評価(A+B)%

番号	質問内容	平均値			肯定的評価(A+B)%		
		児童	保護者	職員	児童	保護者	職員
1	お子さんは、学校で友だちと仲良く活動したり、遊んだりしていると思いますか。	3.6	3.6	3.7	96.8	100.0	100.0
2	お子さんは、みんなで学習するときの望ましい態度(忘れ物をしない、落ち着いて先生や友達の話聞く等)が出来ていると思いますか。	3.1	3.0	3.1	80.6	87.1	100.0
3	お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。	3.2	3.1	3.3	90.3	93.5	100.0
4	お子さんは、宿題や自主学習など家庭学習を進めていますか。	3.3	3.0	3.3	90.3	87.1	100.0
5	お子さんは、読書に親しんでいると思いますか。	3.1	2.5	3.5	74.2	54.8	100.0
6	お子さんは、まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。	3.4	2.8	3.0	93.5	74.2	72.7
7	お子さんは、生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断が身についていると思いますか。	3.4	3.2	3.6	96.8	100.0	100.0
8	お子さんは、自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。	3.5	3.1	3.4	100.0	96.8	100.0
9	お子さんは、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯など)が身についていると思いますか。	3.3	3.1	3.2	90.3	90.3	100.0
10	お子さんは、ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。	3.4	2.6	2.7	90.3	51.6	72.7
11	お子さんは、運動に親しみ、体力が向上していると思いますか。	3.4	3.0	3.3	90.3	83.9	100.0
12	先生は、子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。	3.7	3.4	3.5	100.0	96.8	100.0
13	英語の授業では、先生は、子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。	3.5	3.3	3.4	90.3	83.9	100.0
14	先生は、子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。	3.7	3.4	3.6	93.5	93.5	90.9
15	先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。	3.7	3.6	3.6	100.0	93.5	90.9
16	お子さんの話や授業参観や学校行事、学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっていますか。	3.4	3.3	3.6	90.3	96.8	100.0
17	学校は、環境が整備され、子どもたちが安全に生活できていると思いますか。	3.6	3.6	3.7	93.5	100.0	100.0

※平均値・肯定的評価の、青数字は昨年度と比べ上がったもの、赤数字は昨年度と比べ下がったもの、黒数字は昨年度と同じもの

… 高評価(3.5以上)
 … 低評価(3.0未満)

令和7年度 学校教育アンケート <記述意見>

【保護者意見】(主な意見を抜粋してまとめました) AとBについて

◇AとBについて

- 1 学年関係なく仲良く遊んでいるから。帰ってから学校へ行き友だちとよく遊んでいるから。(6)
- 4 進んで自学をして、漢字や算数の復習をしているから。
- 4 勉強に関して友達とライバル関係でよい点数を取ろう頑張っている姿勢がよくわかる。
- 6 挨拶はよく出来ている
- 8 少人数ならではの、学年を問わず、全校児童で仲良く遊んでいる様子が伺えるため。(3)
- 12 基礎から教えてもらって助かっている。子供のペースに合わせて学習を進めて頂いているおかげで気持ちの安定もできていると思う。(2)
- 13 英語の授業はとても楽しいみたいで、楽しく英語を学べて良いと思います。
- 14 文字入力がとてもスムーズになってきています。日々、授業や自宅で使用するようになったからだと思います。
- 15 子供のことをとても親身に寄り添って頂き、ひとりひとりに向けた教育ができていて安心して先生にお任せできています。少人数学校ということもあり、一人一人に向き合ってもらっていて、小さな事でも相談ののってもらっているのが子供も考えこぶことなく生活できていると思う。(2)
- 15 気になったこと、よかったことなど教えていただけて助かりました。ダム見学のことを教えていただいたり、動画を流していただいたり、子ども好きなことを氣にかけて、応援してもらえることがありがたいと思います。
- 15 子供のことで悩んでいるときとても親身になってお話を聞いていただきました。その上で学校が出来る以上に支援してくれます。(3)
- 15 個人懇談の時のお話で、担任の先生が子供の事を親の私以上に理解してくれているのを感じました。
- 16 少人数なので、お便りや授業参観で子どもの様子がよくわかって安心でした。
- 16 学級だよりに写真を載せてくださるのがすごく嬉しいです。学校の様子がよくわかります。
- 16 子供たちの写真などたくさんの掲示物があるところが良いなと思った
- 16 地域や保護者が参加できる授業もたくさんあり、すごくいいです。

◆CとDについて

- 5 好きな本をいっぱい読んでほしい
 - 5 興味がある本をもっと読んでほしい
 - 5 本を読む事が少なく感じたので。
 - 10 休みの日など暇さえあればゲーム等をしているので家でも注意をしますがなかなか直らずのように促したら良いかと試行錯誤しています。
 - 10 人数が少ない為、外で遊ぶ相手がいないのでどうしてもゲームの時間が増えてしまう。
 - 10 タブレットの時間が長めに感じているので。
 - 10 家庭の問題ですが、特に忙しい時期は家事をしている間に、子どもがゲームをしたりネットを見ていることが多いです。
 - 11 これはうちの子自体運動が嫌いだから仕方ない。学校側に落ち度はないです。
 - 15 新任の先生にたいしては、ベテランの先生などをつけ、指導してほしい。
- 6, 11 学校云々よりも個人の性格の問題かなと思います

◇ご意見欄…(保護者意見をまとめました)

- 様々な要望への学校の対応に感謝しています。今後、何か連携できる機会があれば嬉しいです。
- いつも岩手小学校をよりよい学校にしようと色々と考えてくださり本当にありがとうございます。
- 学校生活をどのように過ごしていきたいか希望を取り入れて、忙しい中、教室の準備もしていただいて、無理ないようにと先生方が接して下さったおかげで今、前のように登校する事が出来て感謝しています。ありがとうございます。
- いつも保護者の意見を取り入れ、色々と工夫し楽しい学校作りをしようと試行錯誤してくださりありがとうございます。
早起き早寝チャレンジでメディアの時間を制限する際、同じメディアでもYouTubeのショート動画を見るのと、映画や教育番組を見るのとでは違うと思うので、一概に何がよいとは言えませんが、区別ができるとありがたいです。テレビゲームやYouTubeのかわりに、トランプやボードゲームをするよいきっかけになっていますが、1週間続けてだと少し大変です。
- ▲ 毎日サイトの確認ができないため、イレギュラーの持ち物(焼き芋の時の軍手など)や提出物(家読など)は連絡帳等でリマインドしていただけるとありがたいです。

【教職員の意見】

◇AとBについて～成果

- 1 休み時間など、学年関係なく仲良く遊んでいる(3)
- 4 家庭学習チャレンジ週間の取組等で、児童の家庭学習の定着や読書週間が身についている。また家庭の協力が得られている。(2)
- 5 児童が読む本の内容が簡単な物から、文字数の多い物へと変化している。
- 11 昨年度もでしたが、マラソン大会に向けて期間中は毎日頑張っていた。また、全校での練習時間が終わっても個人的に練習をしている姿も見られたため。
- 14 個別対応がしやすい。深めることができる児童は自分で調べて進むことができる。
- 16 学年だよりなどの配布物ばかりではなく、地域の方との結びつきが密接で、保護者との連携が密だと思ふ。
- 17 修繕箇所がすぐに整備されたり、避難訓練などで子供たちも安全に対する意識が高いと思う。

◆CとDについて

- 6 朝のあいさつ運動はできているが、元気がなかったり、お客さんが来た時に進んで挨拶ができていない児童がいたりする。(2)
- 10 メディアの使用時間について、家庭のルールを作り見守ってくださる保護者の方や、「何分以内まで」と自分で制限できている児童がいる。しかし、目標設定の時間が長時間である様子も見られる。健康を守るメディアとの付き合い方については、今後も継続して指導を実施する必要があると考える。
- 14 私自身が有効活用できていないので。
- 15 児童や保護者の相談にのることがあまりできていないと思う。子どもが主体となる授業づくりに対して、自分自身に課題がある。

◇ご意見(○良いところ、△良くないところ、▲次年度への課題)

- 少人数の良さを生かし、誰一人取り残さない教育活動が行われている
- 個別での指導ができるので、深めることができる児童はできるし、分からない児童にはじっくりと対応していくことができる。朝学などで教師が見る時間があるので、担任以外の目線で教えていただけるのでありがたい。小規模校の特色が生きていると思う。
- ▲ 17の環境整備については、管理職の先生方や用務員さんを中心に気を配っていただいているため全体としてBにしましたが、児童・先生方の安全のためにも特別教室へのエアコン設置が実現するとよりよくなると思います。

令和7年度学校評価の分析結果と今後の方向性

学校長が提示した学校経営方針に基づき、学校教育目標の達成に向けて、教育活動を進めてきた。また、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとしての歩みは5年目となり、地域団体との連携協力を教育課程に位置づけ活動を続けてきた。令和5年度から推進してきた地域学校協働活動もさらに進展して、地域や学校外と連携した活動を、昨年度以上に行うことが出来た。また、教育DX化も推進してきた。

そんな中、教職員の自己評価や児童・保護者・教職員のアンケート結果から、本年度の学校運営の成果と課題が明らかになってきた。

以下に本年度の成果と課題点について記した。課題点については、具体的な対策を検討し、目に見える形や行動にして改善し、この学校評価を効果的な学校運営に資するようしていきたい。

1 確かな学力の育成

○成果

・教育活動全体を通して、少人数の良さを生かし、きめ細かな指導が行われている。また、教科担任制も取り入れ、多くの教員が各学年に関わることで一人の児童に対する支援や指導を手厚く行うことができている。

・ICT機器の活用では、GIGA端末が導入され5年目を迎え、どの職員も授業で活用できている。発達段階に応じて子ども達も十分に使いこなせるようになってきている。

・学習に対しては、授業だけでなく、15分の朝活動も活用し個別支援を行うなど、基本的な学習内容の定着において成果を上げている。

●課題

・意識して児童が主体的に活動する場面を取り入れているが、児童主体というよりも、まだまだ教師主導の授業になっている。

・子ども達の発達段階に応じ、ICT機器をさらに効果的に活用する必要がある。

・家庭学習や自主学習への取り組みが習慣化されていない児童がいる。

方向性

・授業展開を再構築し、ICT機器やクラウドの活用を取り入れた、児童主体の学習への転換を図る。

・自学発表会等、子供主体の発表の場を設け、お互いに認め合い、高め合う。

・引き続き、きめ細かな個に応じた学習指導を続けていく。それに加えて、朝学習を計画的に行い基礎基本の定着を図る。

・家庭学習(宿題・自主学習)の取組を、「家庭学習チャレンジカード」を利用して可視化し、子ども達が家庭学習にも主体的・意欲的に取り組めるよう指導を継続する。

2 豊かな心の育成

○成果

・生命を大切に作る心や、他者を思いやる心、善悪の判断は育まれている。また自分のよいところや、仲間のよいところを認める心も育まれていて、道徳心もしっかり身につけている。先生方が、教育活動全体を通して熱心に指導をしていることの表れである。

・「読書」については、過去の反省から読書に触れる機会を数多く設け、保護者にも参加する機会をつくったことで、児童・保護者アンケート共に肯定的評価は高くなった。

●課題

・学校で読書をする機会を数多く作っていることはしっかり伝わっているが、「読書」については、保護者のアンケートでは依然として評価は低いままである。

・教職員からあいさつをすると、あいさつを返すことは出来るが、声が小さかったり、自分から進んでできていなかったり、気持ちの良いあいさつができるまでには至っていない。アンケートからは、児童の肯定的評価は高いが、保護者・教職員の肯定的評価は低く、差を感じる。

方向性

- ・朝読書、ビブリオチャレンジ、おすすめの本の紹介、図書クイズなど、読書に触れる機会を数多く設定し、読書の習慣化を図っていく。また、家読など家庭で読書をする時間を多くする取組を行う。
- ・児童会が中心になって、あいさつの取組を定期的に行う。
- ・引き続き教育活動全体を通して道徳教育を推進し、授業参観で道徳の授業を実施する。

3 健やかな体の育成

○成果

・健康指導、食育指導等を計画的に実施していて、子どもたちの健康への意識を高めることができています。また、マラソン大会や縄跳び大会等に向けて、体を動かす機会を増やし、体力向上を図ることができた。

・安全教育として、交通安全、防災・防犯訓練を計画的に実施することができた。

●課題

・ネット・ゲームの時間管理が上手に出来ている家庭とそうでない家庭の差が大きい。また、アンケートでも保護者・教員ともに肯定的意見が低い。

・外遊び等の運動をする機会の少ない児童や、それに伴い肥満傾向になっている児童が見られる。

方向性

・インターネットやメディア使用については、児童への働きかけだけでなく、お便りや学年部会等を活用し保護者への啓発も引き続き行っていく。また、外部講師の招聘による学習会も引き続き行う。

・体力向上や肥満傾向の対策については、体力づくりの機会を増やすとともに、外遊びを奨励し、日常的に体を動かすことができる取組を仕組んでいく。また、家庭とも連携し、健康指導・食育指導を継続して進める。

4 地域や世界で活躍できる人材の育成

○成果

・地域の方との交流や、地域行事への協力は、長年継続して行ってきたことにより、その仕組み自体が上手く出来上がっている。また、岩手応援隊の支援も受けることで、持続可能な地域と学校の連携の仕組みが確立できてきた。

●課題

・キャリア教育については、児童の実態を踏まえ、児童が自分の目標設定をしたり、振り返りをしたりしているが、学級単位での発表の場を設けず、キャリア発達を促すことができなかった。

方向性

・引き続き、地域学校協働活動を推進して、岩手応援隊(岩手小学校支援ボランティア)の活用をさらに推進し、学校だけでなく地域全体で子ども達を育ていく仕組みを確立していく。また、安全・安心で信頼される学校作りを進めていく。

・自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育むように、子どもが主体となり目標設定と達成を繰り返す取組を行うとともに、対話的な取組を仕組んでいく。

5 働き方改革

○成果

- ・会議等の簡略化等、校務の学校DX化もすすめることができた。
- ・時間外在校時間をグループウェアで管理してきたが、学校平均としては月25時間程度で、昨年度より5時間ほど減少している。月45時間を超える職員は、年間を通して0～2名であった。また月80時間を超える職員は0人であった。

●課題

- ・小規模校のため教職員が少なかったり、任用形態が多様であったりするため、1人の職員の校務分掌が多くなり、偏りも出がちである。時間外在校時間は職員によってばらつきがある。
- ・効率的に業務を行うよう意識しているが、十分にはできていない。

方向性

- ・教員が協働する体制づくりを行い、校務分掌を平準化する。
- ・学校DX化をさらに推進し、業務改善を行う。
- ・教員一人ひとりが働き方を見直すとともに、時間外在校時間を意識した働き方を推進する。

◎学校教育アンケート総括

平均値が3.0以上(中央値は2.5)を達成された項目と考えると、全体的に達成された項目が多い結果が出ている。保護者の記述意見を見ると、『学年関係なく仲良く遊んでいる』『子供のペースに合わせて学習を進めてくれている』『学校の先生が子供のことをよく理解していて、細かな相談にもものってくれて、支援してくれる』『様々な要望への学校の対応に感謝している』『保護者の意見を取り入れ色々工夫し楽しい学校づくりをしようとしてくれている』といった肯定的な意見が多い。また、保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。これらの項目から、少人数の特性を生かした本校の教育活動が効果的であったことがうかがえる。

しかし、「読書」に関してはかなり違っており、保護者の多くは、学校での読書の取り組みに理解を示してくれている一方で、家庭でもっと本を読んで欲しいと考えている。学校では、「読書」時間が少ないことを課題として捉え、読書の時間を確保したり、読書に触れる機会を増やしたり、おススメの本紹介など保護者の協力のもと取り組みを行ってきた。そのため、児童・教職員の評価は昨年より上がっており成果が出ている。しかし家庭では、読書をする時間が少ない児童が多く、保護者の評価は低いままであると考えられる。

また、「あいさつ」「ネット使用時間」についても、児童はできているとの認識であるが、保護者・教職員、つまり大人目からすると、課題があることがわかる。家庭での学習や読書、デジタルメディア利用の時間のバランスの善し悪しの判断基準が、児童と保護者・教員で異なっていると考えられる。

今年度の課題解決に向けて取組を考えていくが、児童・保護者・教職員の三者が成果を実感できるように、引き続き学校と保護者が密に連携しながら取り組んでいきたい。

保護者が密に連携しながら取り組む必要がある。

令和7年度学校関係者評価

2月25日(水)の第3回学校運営協議会において、「令和7年度学校評価の分析結果と今後の方向性」を示し、今後の学校運営の方向性について、ご意見を頂き、承認していただいた。各項目で出された意見については以下の通りである。

1 自己評価・学校教育アンケートについて

- ・教師主導から児童主体の授業づくりへの転換については、今後さらに考えていく必要がある。
- ・「読書」と「ネットの使用時間」については、相関関係があると思われる。家庭での過ごし方で、読書の時間が少なく、ゲーム等ネットの使用時間が多くなっているのではないかとと思われる。昨年度の反省から、学校では、全校一斉朝読書、おすすめの本紹介、ビブリオチャレンジなど、読書に触れる機会をたくさん取り入れているので、児童と教員の評価は高くなっている。今後継続して取り組んでいくことが大事。

2 学校評価の分析結果と今後の方向性について

○確かな学力と自立する力の育成

- ・少人数の学校の良さを生かし、先生方が個に応じたきめ細かな指導をおこなっている。また教科担任制も取り入れ、多くの教職員が児童に関わっているところも岩手小学校のいいところ。
- ・ICT機器を活用した学びを進めるのも良いが、不具合への適切な対応や、書くことの指導にも力を入れて欲しい。

○豊かな心と自己実現を図る力の育成

- ・読書に関しては、子ども達の意識や行動を変える取組は学校側で十分に行っている。保護者も変えることは難しく、すぐには変わらないと思うが、保護者への情報発信や啓発は継続していくことが必要。

○健康な生活を送るための資質・能力の育成

- ・健康指導、食育指導を継続してすすめていくとともに、運動をする機会を増やし体力向上も図っていく。体力づくりにあわせて、同じスポーツだけでなく、いろいろな動きをさせられるように仕組んでいくとさらによい。

○安全・安心、信頼される学校作り 働き方改革

- ・地域との交流や太鼓活動が子供のやりがいにもつながっているので、継続して取り組んでいく。
- ・教職員の健康面への配慮もお願いしたい。

3 全体を通して

- ・小規模校の良さを生かした教育活動が行われている。
- ・今年は、学校創立150周年記念ということで、地域の方々の協力をいただきながら、たくさんの記念行事を行うことができた。今後もそのつながりを継続して行ってほしい。
- ・保護者の記述意見から、学校・教職員と保護者との良好な関係がうかがえる。
- ・岩手ふれあいクラブがこの令和8年の3月で解散となるが、世代間ふれあい活動については、岩手小学校支援ボランティア(岩手応援隊)が引き継いでいく。
- ・プールの取り壊しが決まっているようだが、跡地の有効活用も考えてほしい。
- ・来年度特認校制を利用しての入学生はいないが、子供のペースにあわせて授業を進めることができるのは、大規模校ではできない、岩手小ならではの良いところなので、もっとアピールしても良いと思う。

保護者各位

令和7年度学校評価の結果と今後の方向性

山梨市立岩手小学校

本年度の教育活動を振り返り、職員による自己評価及び保護者・児童・教職員を対象に、Google Forms によるアンケート調査を行いました。アンケート結果は裏面に記しました。アンケート調査の結果では、全体的に良好の評価をいただきました。

以下に、自己評価及びアンケート結果に示された本年度の教育活動の成果と課題点に基づいた今後の改善への方向性を記しました。保護者・地域の皆様と一層連携し、子どもたちの充実した学校生活を支援していきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【成果】

① 充実した学校生活

学校生活については、ほとんどの児童・保護者・職員から良い評価をいただいています。今後も引き続き、学校が魅力的な場所になるよう、児童が主体的に取り組む教育活動を展開して参ります。また個に応じたきめ細かな対応はもちろんです。いじめ未然防止対策にも力を入れて取り組んでまいります。

② 豊かな心の育成

小規模校の良さを生かし、一人一人の児童に寄り添い、きめ細かく対応していると、児童・保護者から良い評価をいただいています。また、他者を思いやる心・認める心などがしっかりと育っていると感じていただいています。さらに豊かな心の育成に向けて、全職員一丸となって進めてまいります。

③ 安全・安心、信頼される学校

安全管理や情報発信、保護者・地域との連携について、ほとんどの職員・児童・保護者から良い評価をいただいています。児童の安全・安心を第一に考えた校舎や校庭、通学路等についての安全管理、学校生活の様子等の情報発信、保護者・地域との連携を引き続き進め、信頼される学校づくりに取り組んでまいります。

【課題点に基づいた今後の方向性】

① 児童主体の授業への転換と自主学習の確立

学習態度や家庭学習については、評価が高くありません。児童の学習意欲のさらなる向上のために、ICT機器を活用した児童主体の授業への転換や、自分で考える自主学習の確立を図ります。また、「岩手っ子家庭学習チャレンジカード」の取り組みも継続し、家庭学習の習慣化やさらなる充実化を図ります。

② 豊かな心の育成

「読書」については、保護者の評価が低くなっています。学校では読書時間の確保のため、今年度様々な取組を進めてまいりました。そのことについては保護者の多くが理解を示してくれていますが、さらに家庭での読書の習慣化にも力を入れて取り組んでまいります。また、心の教育についても、学校教育全体を通して進めてまいります。

③ 基本的生活習慣の確立

保護者・職員ともに、課題と感じているのが、あいさつの励行、ネット使用（ゲーム等）時間です。来年度も、家庭と協力しながら改善を図ることができるよう、お便りや学年部会等で話題にしてまいります。また、児童が「早寝早起きチャレンジカード」等の情報を活用し、自分で課題改善を行えるような取り組みを引き続き行ってまいります。

令和7年度 学校教育アンケート <三者比較>

A:とてもそう思う(4) B:そう思う(3)
C:あまり思わない(2) D:思わない(1) とした場合の値です (中央値は2.5)

平均値

番号	質問内容	児童	保護者	職員
1	お子さんは、学校で友だちと仲良く活動したり、遊んだりしていると思いますか。	3.6	3.6	3.7
2	お子さんは、みんなで学習するときの望ましい態度(忘れ物をしない、落ち着いて先生や友達の話の話を聞く等)が出来ていると思いますか。	3.1	3.0	3.1
3	お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。	3.2	3.1	3.3
4	お子さんは、宿題や自主学習など家庭学習を進んでしていますか。	3.3	3.0	3.3
5	お子さんは、読書に親しんでいると思いますか。	3.1	2.5	3.5
6	お子さんは、まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。	3.4	2.8	3.0
7	お子さんは、生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断が身についていると思いますか。	3.4	3.2	3.6
8	お子さんは、自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。	3.5	3.1	3.4
9	お子さんは、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯など)が身についていると思いますか。	3.3	3.1	3.2
10	お子さんは、ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。	3.4	2.6	2.7
11	お子さんは、運動に親しみ、体力が向上していると思いますか。	3.4	3.0	3.3
12	先生は、子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。	3.7	3.4	3.5
13	英語の授業では、先生は、子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。	3.5	3.3	3.4
14	先生は、子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。	3.7	3.4	3.6
15	先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。	3.7	3.6	3.6
16	お子さんの話や授業参観や学校行事、学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっていますか。	3.4	3.3	3.6
17	学校は、環境が整備され、子どもたちが安全に生活できていると思いますか。	3.6	3.6	3.7

多くの項目について、良い評価をいただきました。記述では、「学年関係なく仲良く遊んでいる」「子供のペースに合わせて学習をすすめてくれる」「学校の先生が子供のことをよく理解してくれていて、相談に乗ってくれたり支援したりしてくれる」「様々な要望への学校の対応に感謝している」「保護者の意見を取り入れ色々工夫し楽しい学校づくりをしようとしている」等、教員の指導や、児童との関係、ご家庭との連携や協力ができていることへの肯定的なご意見が複数ありました。いただいたご意見を励みに、今後も岩手小児童の健やかな成長に尽力してまいります。

5、6、10番が主な課題です。5と10は、相関関係があるように感じます。家庭での時間の過ごし方に、読書とネット使用は関係があると思われます。学校では、課題の残った項目について具体的な取組を検討してまいります。各ご家庭でも課題意識を共有していただき、改善へのご支援とご協力をいただけますようお願いいたします。